経営比較分析表（平成28年度決算）

山口県萩市　市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	**診療科数**	**DPC対象病院**	**特殊診療機能　※１**	**指定病院の状況　※２**
直営	10	対象	ド 透 訓	救 へ 輪
人口（人）	**建物面積（㎡）**	**不採算地区病院**	**看護配置**	
49,772	9,722	第２種該当	７ ： １	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
100	－	－
許可病床（精神）	**許可病床（感染症）**	**許可病床（合計）**
－	－	100
稼働病床（一般）	**稼働病床（療養）**	**稼働病床（一般＋療養）**
100	－	100

グラフ凡例
- ■ 当該病院値（当該値）
- ― 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

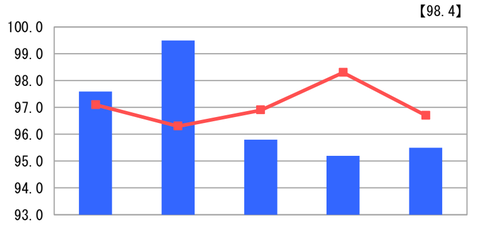
※１　ド…人間ドック　透…人工透析　Ｉ…ＩＣＵ・ＣＣＵ　未…ＮＩＣＵ・未熟児室　訓…運動機能訓練室　ガ…ガン（放射線）診療

※２　救…救急告示病院　臨…臨床研修病院　が…がん診療連携拠点病院　感…感染症指定医療機関　へ…へき地医療拠点病院　災…災害拠点病院　地…地域医療支援病院　特…特定機能病院　輪…病院群輪番制病院

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【98.4】

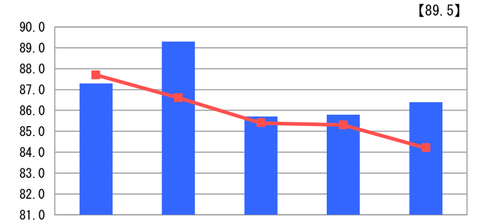


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	97.6	99.5	95.8	95.2	95.5
平均値	97.1	96.3	96.9	98.3	96.7

「経常損益」

②医業収支比率(%)

【89.5】

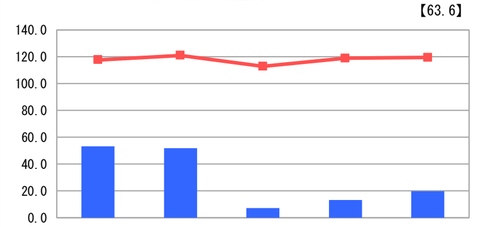


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	87.3	89.3	85.7	85.8	86.4
平均値	87.7	86.6	85.4	85.3	84.2

「医業損益」

③累積欠損金比率(%)

【63.6】

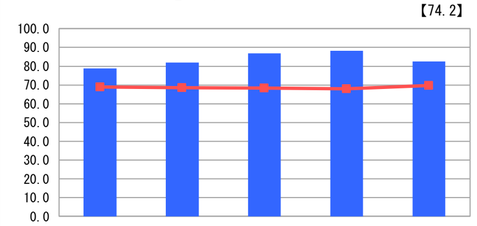


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	53.3	52.0	7.3	13.2	19.9
平均値	117.7	121.0	112.9	118.9	119.5

「累積欠損」

④病床利用率(%)

【74.2】

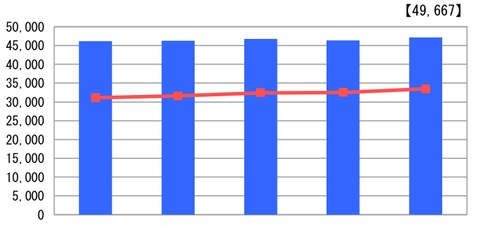


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	78.9	81.9	86.9	88.3	82.5
平均値	69.0	68.5	68.3	67.9	69.8

「施設の効率性」

⑤入院患者１人１日当たり収益(円)

【49,667】

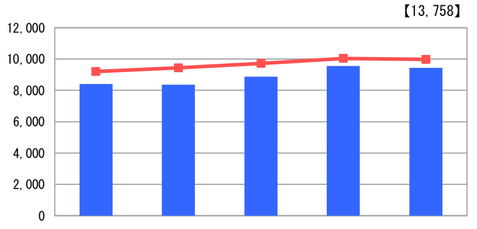


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	46,148	46,297	46,775	46,346	47,166
平均値	31,111	31,585	32,431	32,532	33,492

「収益の効率性①」

⑥外来患者１人１日当たり収益(円)

【13,758】

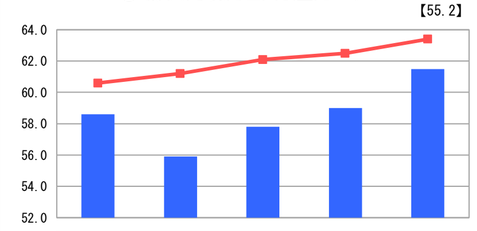


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	8,408	8,364	8,878	9,565	9,445
平均値	9,205	9,437	9,726	10,037	9,976

「収益の効率性②」

⑦職員給与費対医業収益比率(%)

【55.2】

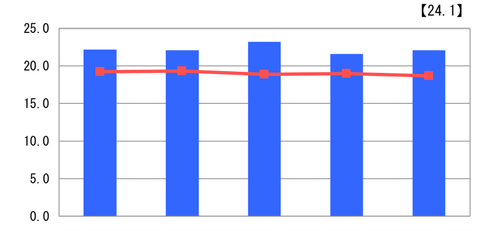


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	58.6	55.9	57.8	59.0	61.5
平均値	60.6	61.2	62.1	62.5	63.4

「費用の効率性①」

⑧材料費対医業収益比率(%)

【24.1】



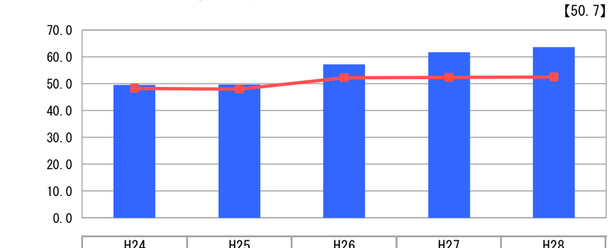
	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	22.2	22.1	23.2	21.6	22.1
平均値	19.2	19.3	18.9	19.0	18.7

「費用の効率性②」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【50.7】

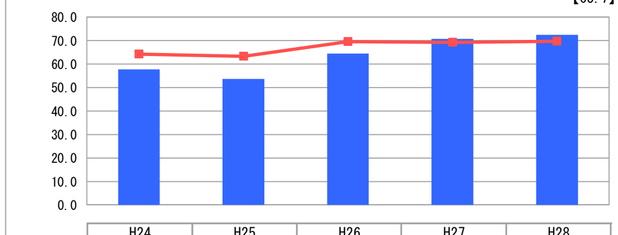


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	49.6	49.7	57.3	61.8	63.7
平均値	48.3	48.0	52.2	52.4	52.5

「施設全体の減価償却の状況」

②機械備品減価償却率(%)

【65.7】

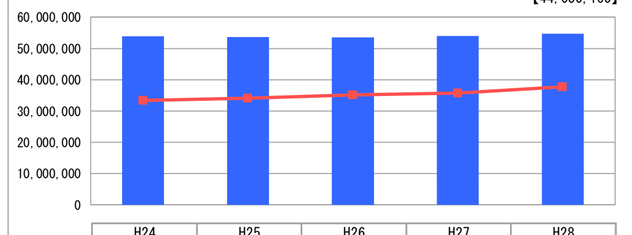


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	57.8	53.7	64.5	70.8	72.5
平均値	64.2	63.3	69.6	69.2	69.7

「機械備品の減価償却の状況」

③１床当たり有形固定資産(円)

【44,050,160】



	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	53,900,670	53,645,010	53,509,010	53,948,810	54,701,450
平均値	33,366,030	34,139,294	35,115,689	35,730,958	37,752,628

「建設投資の状況」

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

Ⅰ　地域において担っている役割

当院は萩医療圏域において唯一の公立病院である。当院の役割は、病院群輪番制病院として救急医療の一翼を担うことや、不採算と言われる小児医療の圏域における唯一の入院の受け入れ等である。また、急性心筋梗塞に対応するため、圏域で唯一経皮的冠動脈形成術（PCI）などの急性期医療も提供している。さらに、ＣＴやＭＲＩ等の高額医療機器を市内の診療所に共同利用という形で提供している。一方、へき地医療拠点病院として離島の見島診療所への代診、同じく大島診療所も含めた画像伝送システムを利用したレントゲン診断支援、検診読影を行っている。

Ⅱ　分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医業収支比率は類似病院平均値を上回り、病床利用率も80%を超える水準を維持し、また、入院・外来とも患者１人１日当たり収益は平均値を上回る又は同水準となっている。

しかしながら、萩医療圏域の人口減少を受けて、患者数が減少傾向にあり、医業収益がH26年度をピークに少しずつ減少しており、経営の抜本的な改善が必要と考えられる。

現在に至るまで基準外繰入はないものの、5年連続で経常収支比率が100%を下回っており、材料費や経費の削減に努めているが、職員給与費対医業収益率も増加傾向にあるなど、厳しい状況が続いている。

引き続き経費削減に努め、さらに医業収益の改善のために患者増につながる努力が必要と考える。

2. 老朽化の状況について

平成12年の開院から既に17年が経過しており、有形固定資産減価償却率が平均値を上回っている状態で、今後、空調設備の更新（H31～H33）、屋根・外壁の改修（H31～H34）などを計画的に実施する。

機械備品減価償却率が平均値を上回っているが、これは、耐用年数の1.5～2倍の使用を想定し、保守等を充実して延命化を図っている結果であり、今後も計画的な更新に努める。

全体総括

当院は、看護師不足が深刻な中にあっても「7対1入院基本料」という病棟の最も手厚い医療・看護体制を整えているが、診療報酬改定により算定要件が厳しさを増している。

さらに、少子化や人口減による患者の減少により医業収益が減少傾向にある。そのような状況の中でも自治体病院として救急や小児科等の不採算医療を担っていかなければならない。

このため、萩市民病院事業新改革プランに掲げた病床機能の分化・連携の推進、在宅医療の推進、医療従事者の確保といった施策を推進し、経営の効率化にも取り組んでいく。